

第5・6学年 算数科学習指導案

日時 2006年10月24日(火) 5校時
児童 第5学年 男子6名 女子1名 計7名
第6学年 男子7名 女子2名 計9名
授業者 T1 熊谷 健司
T2 佐藤 英介

- 1 単元名 第5学年 小数のわり算を考えよう(5年上 P87～)
第6学年 分数のかけ算とわり算を考えよう(2)(6年上 P71～)

2 単元の目標

(5年)

☆除数が小数の場合の除法の意味とその計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を高める。
また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。

【関心・意欲・態度】

・除数が小数の場合でも、既習の整数の場合の数量関係などをもとにして、除法の式に表そうとする。

【数学的な考え方】

・整数の除法計算と関連づけて、除数が小数の除法計算のしかたを考える。

【表現・処理】

・除数が小数の除法計算をすることができる。

【知識・理解】

・除数が小数の除法の意味やその計算のしかたを理解する。

(6年)

☆除数が分数である場合の除法計算の意味とその計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を高める。

【関心・意欲・態度】

・分数÷分数の計算のしかたを、分数の性質や既習の計算と関連づけて考えようとする。

【数学的な考え方】

・分数の性質や既習の計算をもとにして、分数÷分数の計算のしかたを考える。

【表現・処理】

・分数÷分数の計算ができる。

【知識・理解】

・分数÷分数の計算の意味やその計算のしかたを理解する。

3 単元について

(1) 教材について

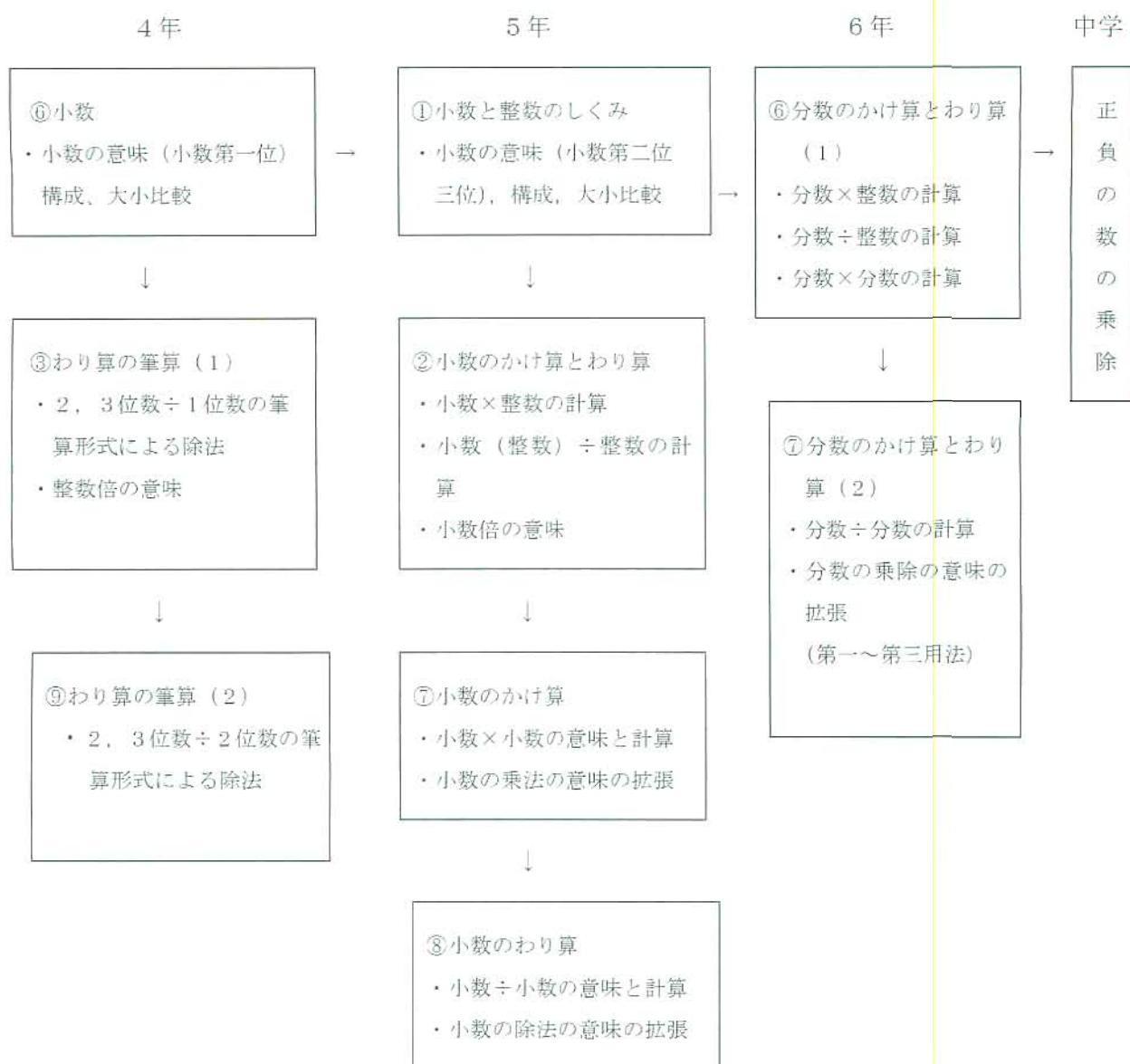
5年生は、小数については第4学年第6単元で $\frac{1}{10}$ の位の範囲でしくみや加減計算について学習している。そして、第5学年第1単元で小数の意味を $\frac{1}{100}$ の位まで拡張し、小数が整数と同じ十進法であることを扱っている。また、小数の乗法については、第2単元「小数のかけ算とわり算」で小数×整数の意味と計算まで学習しており、前単元の第7単元「小数のかけ算」で小数×小数の意味と計算方法を学習している。本単元では「÷小数」の意味(除法の意味の拡張)と、その計算方法を扱うことになる。

6年生は、分数について、これまでに分数の表し方とその意味、分数の加法・減法について学習し、前単元「分数のかけ算とわり算(1)」では、分数×整数、分数÷整数、分数×分数につい

て扱っている。それを受けて本単元では、分数でわることの意味と計算のしかたについて学習することになる。

「 \div 小数」、 「 \div 分数」 いずれの場合においても、等分除場面での除法の基本的な意味を、「一つの量」を求める計算であると捉え直すことが大切となる。

(2) 教材の関連と発展



4 児童について

算数についての意識調査の結果、算数学習に対する捉え方は概ね好意的で、5年生では全員が、6年生では9名中7名が「好き」と答えている。また、「算数は得意」とする子も、5年生で5名、6年生で7名にのぼっている。しかし、「算数は嫌い」と答えた子が6年生に2人おり、算数に苦手意識を持っている子の存在にも留意していかなくてはならない。また、特に6年生では、算数が「好き・得意」とする子の中にも、実際の理解力や定着の程度にはかなりの差がある。

レディネステストの結果を見ると、5年生では、「小数÷整数」の計算ができていない子が3名おり、まだ定着不十分のところが見られた。また、小数倍の問題についても半数以上の子が、比較量と基準量を正確にとらえることができなかつた。6年生は、「分数÷整数」の計算や「分数×分数」の問題については概ねできていた。しかし、5年生同様、小数倍の意味の理解や、比較量・基準量の正確な把握についてはまだまだ十分とはいえない現状も明らかとなった。

5年、6年共に授業態度が意欲的で、意見も積極的に発表する。ただ、話し方や聞く態度については、まだ不十分なところもあり、特に、自分の考えを分かり易く相手に伝えるということが苦手な子が多い。

これまで算数の授業は基本的に単式で行ってきているが、単元によっては、授業の導入とまとめを合同で行い、互いに学び合ったり学習内容を交流するような授業形態も取り入れてきた。合同授業では、互いに刺激し合いながら、より活発に意見を交流する姿も見られている。今回の算数の授業においても、互いの意見や考えを出し合いながら自分の考えを深めたり、算数的な内容について深めていけるような学び合いの姿を期待していきたい。

5 指導にあたって

5年生の「÷小数」の計算では、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという既習の計算のきまりを活用しながら、整数の計算に帰着して考えればよいということに、児童自らが気づくようにしていきたい。

また、6年生の「分数÷分数」の指導では、「わる数の分母と分子を入れかえた数をかける」という単なる形式的な計算手順の暗記とならないよう、その背景となる計算の意味をしっかりと押さえていきたいと考えている。

さらに、小数倍、分数倍の指導においては、何がもとになる量で、何が比べられる量なのかをしっかりと丁寧に扱うと共に、数直線や関係図などを用いながら、「もとにする量×何倍＝比べられる量」の数量関係を的確に捉えられるようにしていきたい。

本時では、次のようなことをねらいに、複式学級として一斉に指導する場面を設ける。

本時の内容は、小数、分数の違いはあるものの、5・6年生でほぼ共通した内容となっている。倍を表す数と比較量から基準量を求める問題は、立式が難しく、児童にとっても大きな抵抗が予想される。そこで、導入場面を合同でやることで、5年生にとっては6年生から課題解決の見通しについていろいろとアドバイスを受けながら、学習の方向付けができるようになる。

6年生にとっても、下学年の学習内容の想起ができ、本時の学習課題も明確になる。すなわち、小数倍の時にはどのように課題解決したのかを思い起こし、本時の分数倍の場合でも同じようにできるのではないかと考えることができるであろう。

また、導入部分を一緒に行うことで、双方の学習意欲の高まりも期待できる。さらに、学習の終末には、両学年が学習した内容をお互いに伝え合うことで、より理解を深めたり、互いの学習の共通性にも気づかせていきたい。5年生にとっては、6年生での学習内容の発展性に気づくことにもなるであろう。また、学習感想の交流などを通し、互いの頑張りを認め合ったりしながら、共に学ぶ一体感を大事にしていきたい。

6 指導計画【複式学級同単元指導計画】

単元名	小数のわり算 1 2 時間(標準時数 1 1 時間)	5 学年	時数	6 学年	分数のかけ算とわり算(2) 1 3 時間(標準時数 1 2 時間)	単元名
主な評価規準	学習内容・学習活動・時間	形態	学習内容・学習活動・時間	主な評価規準		
<p>【考】既習の整数÷整数、小数÷整数などに関連づけて、整数÷小数($\frac{1}{10}$の位まで)の計算のしかたを考えている。</p> <p>【知】小数でわることの意味を理解している。</p>	<p>めあて 小数や分数のわり算のしかたを考えよう</p> <p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> <p>(第1・2時)</p>	<p>30分</p> <p>60分</p>	<p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> <p>(第1・2時)</p>	<p>【関】分数の除法の意味を数直線図などを用いて考えようとしている。</p> <p>【考】図や計算のきまりを用いて既習の分数×整数、分数÷整数の計算をもとにして、真分数÷真分数の計算の仕方を考えている。</p>		
<p>【考】除法の性質を用いて既習の計算に帰着させ、$\frac{1}{10}$の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを考えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立式を考える。 ・$7.8 \div 6.5$の計算のしかたを考える。 ・小数÷小数の筆算のしかたをまとめる。 <p>(第3時)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{9}{10} - \frac{3}{4}$の工夫した計算のしかたを考える。 <p>(第3時)</p>	<p>【表】整数÷分数の計算ができる。</p>		
<p>【表】$\frac{1}{10}$の位までの小数どうしの除法の筆算ができる。</p> <p>【知】小数÷小数の除法の筆算のしかたを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・$2.8 \div 3.5$, $1.8 \div 2.4$, $8 \div 2.5$の筆算のしかたを考える。 ・計算練習をする。 <p>(第4時)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{3}{4} - \frac{6}{5} + \frac{1}{5}$の計算のしかたを考える。 <p>(第4時)</p>	<p>【表】3口の分数の乗除混合計算ができる。</p>		
<p>【考】数直線上で除数の大きさと関連づけて、被除数と商の大小関係を考えている。</p> <p>【知】純小数でわると商が被除数より大きくなることを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・$240 \div 1.2$と$240 \div 0.8$の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 <p>(第5時)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「$\frac{7}{4}$ mの重さが$\frac{2}{5}$ kgのホースがあります」という文章をもとにして立式する。 <p>(第5時)</p>	<p>【表】問題場面における数量の関係を、数直線図を用いて立式することができる。</p>		
<p>【考】あまりの小数点の位置を被除数と関連させて考えている。</p> <p>【表】あまりのある場合の小数の除法計算ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2.5 lのジュースを0.7 l入りの水筒に入れると、何個できてジュースはどれだけ余るかを考える。 ・小数の除法におけるあまりの小数点のうつ位置についてまとめる。 <p>(第6時)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・分数と小数のまざった計算について考える ・逆数について知る。 <p>(第6時)</p>	<p>【関】逆数の考えに関心を持ち、自ら活用しようとしたり、それらのよさを見つけようとしたりしている。</p>		
<p>【表】小数の除法の答えを概数で表すときの処理のしかたを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1.4 lの砂の重さが、2.6 kgの時の1 lの砂の重さを2けたの概数で求める。(第7時) 		<ul style="list-style-type: none"> ・$\frac{3}{4}$時間は何分か考える。 ・40分は何時間か考える。 <p>(第7時)</p>	<p>【表】時間を分数表示して、問題解決に用いることができる。</p>		

単元名	小数のわり算 12時間(標準時数11時間)	5学年	時数	6学年	分数のかけ算とわり算(2) 13時間(標準時数12時間)	単元名
【表】学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。	・「力をつけよう」に取り組む。 (第8時)				・「力をつけよう」に取り組む。 (第8時)	【表】学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。
【表】比較量、基準量が小数の場合でも、何倍かを除法で求めることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて 何倍かの求め方を考えよう</div> <p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">T2 直接指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">T1 直接指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習の振り返り お互いに学習したことを交流し合い、小数や分数の時も、ある大きさがもとにする大きさの何倍にあたるかを求めるにはわり算を使うということを確かめる。</div> (第9時=60分)				<p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> (第9時=60分)	【考】比較量、基準量が分数の場合も、図などを用いることによって整数倍に帰着して考えている。
					<p>・600円の$\frac{6}{5}$倍、$\frac{3}{5}$倍の代金の求め方を考える。</p> <p>・基準量の分数倍にあたる大きさの求め方をまとめる。 (第10時)</p>	【知】倍を表す数が分数の場合も、比較量を求めるには乗法を用いてよいことを理解している。
【表】倍を表す数が小数の場合も□を用いるなどして基準量を求めることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて もとにする大きさの求め方を考えよう</div> <p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">T2 直接指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">T1 直接指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習の振り返り お互いに学習したことを交流し合い、小数や分数の時も、もとになる大きさを求めるときにはわり算を使うということを確かめる。</div> ☆本時(第10時=60分)				<p>○自力解決 ○学び合い ○まとめ</p> ☆本時(第11時=60分)	【表】倍を表す数が分数の場合も□を用いるなどして基準量を求めることができる。
【知】基本的な学習内容について理解している。	<p>・「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>・学習したことを交流し合う。 (第11時=60分)</p>				<p>・「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>・学習したことを交流し合う。 (第12時=60分)</p>	【知】基本的な学習内容について理解している。

7 本時の指導

(1) 目標

5年：倍を表す数が小数のときも、基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。

6年：倍を表す数が分数の場合も、基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。

(2) 具体の評価規準と支援

《5年》

評価の観点 (評価方法)	具体の評価規準		
	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する子への支援
表現・処理 (発表シート) (発表)	・基準量の求め方をみんなに分かりやすく説明することができる。	・倍を表す数が小数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。	
予想される 反 応	・ $63 \div 1.8 = 35$ という式から答えを導き出し、その意味を数直線図と関わらせながら考えている。	・ $\square \times 1.8 = 63$ という乗法の式から $\square = 63 \div 1.8$ という除法の式を導き出し、答えを出している。	・式を立てることができない。 ・基準量、倍、比較量の関係が分からない。
指導の手だ て	・式と数直線図を関連づけながら、基準量の求め方を分かりやすくまとめさせる。	・式だけで考えている子には、数直線図とも関連づけながら求め方を考えさせる。	・ヒントカードを提示しながら、□を使ったかけ算の式に気づかせる。 ・1.8(小数)ではなく2(整数)だったらどういう式になるか考えさせる。

《6年》

評価の観点 (評価方法)	具体の評価規準		
	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する子への支援
表現・処理 (発表シート) (発表)	・基準量の求め方をみんなに分かりやすく説明することができる。	・倍を表す数が分数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。	
予想される 反 応	・ $70 \div \frac{5}{3} = 42$ という式から答えを導き出し、その意味を数直線図と関わらせながら考えている。	・ $\square \times \frac{5}{3} = 70$ という乗法の式から $\square = 70 \div \frac{5}{3}$ という除法の式を導き出し、答えを出している。	・式を立てることができない。 ・基準量、倍、比較量の関係が分からない。
指導の手だ て	・式と数直線図を関連づけながら、基準量の求め方を分かりやすくまとめさせる。	・式だけで考えている子には、数直線図とも関連づけながら求め方を考えさせる。	・ヒントカードを提示しながら、□を使ったかけ算の式に気づかせる。 ・ $\frac{5}{3}$ (分数)ではなく2(整数)だったらどういう式になるか考えさせる。

(3) 展開

支援 (【評価】、◆個への配慮)	5年学習活動	時	分	6年学習活動	支援 (【評価】、◆個への配慮)
<ul style="list-style-type: none"> 教師の名前を使いながら、興味関心を喚起するような問題提示をする。 前時の学習と比較しながら、今日はもとにする大きさを求める問題であることに気づかせる。 数直線図をもとにしながら答えや考え方の見通しをもたせる。 	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 英介先生の体重は 63 kg で、これは小学生の時の 1.8 倍です。 健司先生の体重は 70 kg で、これは小学生の時の $\frac{5}{3}$ 倍です。 (1) 英介先生の小学生の時の体重は何 kg ですか。 (2) 健司先生の小学生の時の体重は何 kg ですか。</p> </div> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>共通課題 もとにする大きさの求め方を考えよう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>倍を表す数が小数</p> </div> <p>3 見通しをもつ。</p>	<p>つかむ</p> <p>みつける</p> <p>10分</p>	<p>1 問題を把握する。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>倍を表す数が分数</p> </div> <p>3 見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師の名前を使いながら、興味関心を喚起するような問題提示をする。 もとにする大きさを求める問題であることに気づかせる。 既習内容と比較しながら、今日の課題に気づかせる。 数直線図をもとにしながら答えや考え方の見通しをもたせる。 既習内容の想起から、分からない数は□にすればよいという課題解決のヒントを6年生から出させたい。 	
<p>(5年 T2による直接指導)</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>4 自力解決をする。</p> <p>5 学び合う。</p> <p>6 まとめる。</p> <p>7 練習問題を解く。</p> </div>		<p>みつける</p> <p>たしかめる</p> <p>まとめる</p> <p>40分</p>	<p>(6年 T1による直接指導)</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>4 自力解決をする。</p> <p>5 学び合う。</p> <p>6 まとめる。</p> <p>7 練習問題を解く。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを相手に説明することで、より理解を確かなものにさせる。 互いの学年の頑張りを認め合えるよう、声かけを行う。 小数のわり算の練習問題に取り組んでいくことを知らせる。 	<p>8 振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お互いに学習したことを交流し合い、倍を表す数が小数の場合も分数の場合も、基準量は比較量÷何倍で求められることを確かめる。</p> </div> <p>9 次時の学習内容を知る。</p>	<p>ひろめる</p> <p>10分</p>	<p>8 振り返る。</p> <p>9 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの計算の共通点について考え、発表させる。 互いの学年の頑張りを認め合えるよう、声かけを行う。 分数のわり算の練習問題に取り組んでいくことを知らせる。 	


《5 学年の展開部分》

段階	学習活動と児童の反応	支援（【評価】，◆個への配慮）
み つ け る 10 分	<p>4 自力解決をする。</p> <p>○自分の見通しにそって解決する。</p> <p>○考え方と答えを学習プリントに書く。</p> <p>・ $\square \times 1.8 = 63$ $\square = 63 \div 1.8$ $= 35$</p> <p>・ $63 \div 1.8 = 35$</p> <p>・ 数直線図を使って説明を書き込む。</p>	<p>・ 5年生の課題を確認してから、自力解決に入らせる。</p> <p>◆C段階の児童には、ヒントカードを手がかりにしなが考えさせる。また、1.8が2だったらどうなるか、整数の場合に当てはめて考えさせる。</p> <p>◆B段階の児童には、もとなる量を1とみると、その1.8にあたる量が63kgであることをとらえさせながら、\squareを使った乗法の式をまず立てさせ、そこから除法の式を導き出すようにさせる。</p> <p>◆A段階の児童には、検算をさせるとともに、もとなる量の求め方についてみんなに分かり易く説明するという意識をもたせる。</p> <p>【表】倍を表す数が小数の場合でも、基準量を比較量÷倍で求めることができる。</p>
た し か め る 20 分	<p>5 学び合う。</p> <p>○それぞれ解決したことを発表し合う。</p> <p>・ 自分の考えをみんなに分かるように発表したり、発表について質問したりする。</p> <p>・ 自分の考えと同じ所はないか考えながら聞く。</p> <p>○共通性を確かめる。</p> <p>・ わり算で求める。</p>	<p>・ 式がどうしてわり算になるのかということを中心に発表させる。</p> <p>◆はじめに、B段階の児童には、\squareを使ったかけ算の式から、$63 \div 1.8$という式を導き出し、答えを出したことを発表させる。</p> <p>◆A段階の児童には、B段階の児童の発表を補うような形で式がわり算になるわけを数直線図と関わらせながら説明させる。</p> <p>◆C段階の児童には、他の児童の発表を聞いて答えを確かめさせる。</p> <p>・ 既習内容との共通性や、それぞれの考え方の共通性に気づかせる。</p> <p>・ 数の関係を捉えるためには、数直線図を積極的に活用すればよいということに気づかせる。</p>
ま と め る 10 分	<p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>もとなる大きさを求めるときは、\squareを使ってかけ算の式に表し、わり算で求めます。</p> </div> <p>7 練習問題を解く。</p> <p>○適用問題を解く。</p>	<p>・ この後、5年生の学習内容を6年生に伝えるという目的意識をもたせながら、しっかり学習事項の定着を図りたい。</p> <p>◆机間指導をして答えを確認する。</p>

8 板書計画 (5年生)


(問題) 英介先生の体重は 63 kgで、これは小学生の時の 1.8 倍です。英介先生の小学生の時の体重は何kgですか。

(課題)
もとにする大きさの求め方を考えよう。



0 □ kg 63 kg

(まとめ)
もとになる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表し、わり算で求めます。



0 1 1.8 倍

(自力解決)

(練習問題)

9 学び合い活動を充実させるための個の生かし方 (5年生)

段階	観点	実態	本時での生かし方
A	考えをもつ	・整数倍の時には比較量や基準量の関係を的確に捉えられていた。	・自力解決場面では、答えの求め方を数直線図と関わらせながら考えさせる。
	学び合い	・自分の考えを筋道だてて発表できる。 ・友だちの考えの妥当性やよさを見つけながら聞くことができる。	・基準量の求め方について、式と数直線図とを関連させながら、分かりやすく発表させる。 ・既習内容との共通性や、それぞれの考え方の共通性について発表させる。
B	考えをもつ	・整数倍の時には、比較量や基準量の関係の捉えがややあいまいだった。	・基準量を求める問題であるということをもとにしっかりと押さえた上で、基準量を□にするという視点を与え、乗法の式を立てさせてから、除法の式を導き出すようにさせる。
	学び合い	・発表意欲はあるが分かり易く発表することが難しい。 ・友だちの発表に対して自分の考えと似たところを見つけることができる。	・□を使った乗法の式から、 $63 \div 1.8$ という除法の式を立てたことを発表させ、答えを導き出せたことを認める。
C	考えをもつ	・整数倍の時には、比較量や基準量の関係が捉えられなかった。	・数直線図をもとにしながら、基準量や比較量の関係が捉えられるように支援し、ヒントカードを手がかりにしながら、基準量を求める方法について考えさせる。
	学び合い	・自分から進んで発表することは難しい。 ・友だちの発表は聞くが、自分の考えと関連づけて聞くことは難しい。	・友だちの話をよく聞き、ヒントカードを手がかりにしながら出した自分の答えが合っていることを確かめさせ、達成感をもたせる。

《6 学年の展開部分》

段階	学習活動と児童の反応	支援（【評価】，◆個への配慮）
み つ け る 10 分	<p>4 自力解決をする。</p> <p>○自分の見通しにそって解決する。</p> <p>○考え方と答えを学習プリントに書く。</p> $\begin{aligned} & \cdot \square \times \frac{5}{3} = 70 \\ & \quad \square = 70 \div \frac{5}{3} \\ & \quad = 42 \end{aligned}$ <p>・$70 \div \frac{5}{3} = 42$</p> <p>・数直線図を使って説明を書き込む</p>	<p>・6年生の課題を確認してから、自力解決に入らせる。</p> <p>◆C段階の児童には、ヒントカードを手がかりにしながら考えさせる。</p> <p>◆B段階の児童には、もとになる量を1と見ると、その$\frac{5}{3}$にあたる量が70kgであることをとらえさせながら、□を使った乗法の式をまず立てさせ、そこから除法の式を導き出すようにさせる。</p> <p>◆A段階の児童には、検算をさせると共に、もとになる量の求め方についてみんなに分かり易く説明するという意識をもたせる。</p> <p>【表】倍を表す数が分数の場合も、□を用いるなどして基準量を求めることができる。</p>
た し か め る 20 分	<p>5 学び合う。</p> <p>○それぞれ解決したことを発表し合う。</p> <p>・自分の考えをみんなに分かるように発表したり、発表について質問したりする。</p> <p>・自分の考えと同じ所はないか考えながら聞く。</p> <p>○共通性を確かめる。</p> <p>・わり算で求める。</p>	<p>・式がどうしてわり算になるのかということを中心に発表させる。</p> <p>◆はじめにB段階の児童には、□を使ったかけ算の式から$70 \div \frac{5}{3}$という式を導き出し、答えを出したことを発表させる。</p> <p>◆A段階の児童には、B段階の児童の発表を補うような形で、式がわり算になるわけを数直線図と関わらせながら説明させる。</p> <p>◆C段階の児童には、他の児童の発表を聞いて自分の答えが合っているかどうかを確かめさせる。</p> <p>・既習内容との共通性や、それぞれの考え方の共通性に気づかせる。</p> <p>・数の関係を捉えるためには、数直線図を積極的に活用すればよいということに気づかせる。</p>
ま と め る 10 分	<p>6 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>もとになる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表し、わり算で求めます。</p> </div> <p>7 練習問題を解く。</p> <p>○適用問題を解く。</p>	<p>・この後、6年生の学習内容を5年生に伝えるという目的意識ももたせながら、しっかり学習事項の定着を図りたい。</p> <p>◆机間指導をして答えを確認する。</p>

8 板書計画 (6年生)

<p>(問題) 健司先生の体重は70 kgで、これは小学生の時の$\frac{5}{3}$倍です。健司先生の小学校の時の体重は何kgですか。</p>	<p>(課題) もとにする大きさの求め方を考えよう。</p>
<p>(自力解決)</p>	<p>(まとめ) もとになる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表し、わり算で求めます。</p> <p>(練習問題)</p>

9 学び合い活動を充実させるための個の生かし方 (6年生)

段階	観点	実態	本時での生かし方
A	考えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 整数倍、小数倍の時には比較量や基準量の関係を的確に捉えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決場面では、答えの求め方を数直線図と関わらせながら考えさせる。
	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを筋道だてて発表できる。 友だちの考えの妥当性やよさを見つけながら聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基準量の求め方について、式と数直線図とを関連させながら、わかりやすく発表させる。 既習内容との共通性や、それぞれの考え方の共通性について発表させる。
B	考えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 整数倍、小数倍の時には、比較量や基準量の関係の捉えがややあいまいであった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基準量を求める問題であるということをもとにしっかりと押さえた上で、基準量を□にするという視点を与え、乗法の式を立てさせてから、除法の式を導き出すようにさせる。
	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> 発表意欲はあるが分かり易く発表することが難しい。 友だちの発表に対して自分の考えと似たところを見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □を使った乗法の式から、$70 \div \frac{5}{3}$ という除法の式を立てたことを発表させ、答えを導き出せたことを認める。
C	考えをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 整数倍、小数倍の時には、比較量や基準量の関係が捉えられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図をもとにしながら、基準量や比較量の関係が捉えられるように支援し、ヒントカードを手がかりにしながら、基準量を求める方法について考えさせる。
	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで発表することは難しい。 友だちの発表は聞くが、自分の考えと関連づけて聞くことはできない。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの話をよく聞き、ヒントカードを手がかりにしながら出した自分の答えが合っていることを確かめさせ、成就感を持たせる。